

2024 年度前・後期 授業改善アンケート集計結果に対するコメント

—経済学部—

学部長 大津 武

2024 年度の授業改善アンケートは、アンケート実施対象である 583 科目の内 497 科目（85%）、実施必須 424 科目の内 411 科目（97%）で実施された。延べ回答者数は前後期合わせて 12,968 人（延べ履修者数 24,784 の 52%）であり、前年度比 303 人増となっている。

表 1 に示されたアンケート結果より、5 点満点の内平均 4 ポイントを超える高いポイントとなっていることから、学生は学修を通じて学問的興味・関心を持ち、学修活動が有意義であったと判断していることがうかがえる。過年度に比べて微増となっており、本学部のカリキュラムが一定の成果を収めていると評価できる。

表 1：学修効果

設問	項目	学期	2022年度	2023年度	2024年度
12	この分野への興味・関心が引き起こされた	前期	3.97	4.05	4.08
		後期	4.11	4.12	4.15
14	この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった	前期	4.16	4.19	4.22
		後期	4.25	4.24	4.28
	延べ回答者数（人）	前期	6,408	6,886	7,237
		後期	5,403	5,779	5,731

表 2 には、教員の取組に対する学生の評価ポイントがまとめられている。設問「3」の後期については、昨年度より 0.01 ポイント下がっているが、その他の項目については、ポイントが上昇傾向にある。また、4 ポイントを上回る高いポイントとなっており、過年度より引き続き、教員が前期・後期を通じて授業を適切に実施しているものと評価できる。

表 2：教員の取組

設問	項目	学期	2022年度	2023年度	2024年度
3	教員は休講や遅刻をすることなく授業を行っていた	前期	4.44	4.46	4.50
		後期	4.44	4.46	4.45
4	シラバスと授業の内容は一致していた	前期	4.46	4.46	4.52
		後期	4.49	4.48	4.49
5	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	前期	4.26	4.25	4.34
		後期	4.36	4.30	4.39
6	教員は教室内が学習にふさわしい状態（私語等対応）に保たれているよう心掛けた	前期	4.41	4.38	4.45
		後期	4.45	4.41	4.45
7	教員の板書・授業資料は見やすかった	前期	4.19	4.20	4.27
		後期	4.31	4.28	4.33
8	教員は発言・議論等授業参加を積極的に促していた	前期	3.97	3.99	4.06
		後期	4.11	4.09	4.14
9	教員は質問への回答や課題の返却・解説等を十分にしていた	前期	4.20	4.25	4.29
		後期	4.29	4.29	4.33

表3に示された設問「1」の集計結果から、学生は全15回の講義回数の内、欠席は平均的に2回以下であることがうかがえる。また、授業理解のための努力（設問「2」）にも取り組んでいると考えられる。設問「10」については、2024年度のアンケートより選択肢の記述が変更されたため注意を要するが、学生は概ね課題の量は適量であったと考えていると判断できる。一方、設問「11」の集計結果より、授業1回あたりの授業時間外の自修時間は微増傾向とはいえ1.5時間未満に留まっている。

この点に関連して、表4には、設問「10」と「11」の回答結果の分布が示されている。課題量が「少ない」又は「とても少ない」と回答した学生が3%程度であるのに対して、授業時間外にほとんど自修をしていない学生は10%以上となっていることから、一部の学生は自修の習慣が身につけていない可能性がうかがわれる。また、課題量が適量と回答した学生が70%、「とても多い」又は「多い」と回答した学生を合わせると、97%程度の学生にとって課題量は不足していないが、90%程度の学生は自修時間を1.5時間未満と回答している。このことは、課題量が学生の自修活動に繋がっていない、又は、学生が考える自修の適量が授業1回あたり1.5時間未満であるとの解釈が可能である。

自学自習は大学における学びにとっても重要な要素であるため、今後も学生により活発な自修活動を促すとともに、その重要性を伝えていくことが必要である。

表3：学生の取組姿勢

設問	項目	学期	2022年度	2023年度	2024年度
1	この授業に欠席した回数は次のようである（※1） ⑤7回以上 ④6～5回 ③4～3回 ②2～1回 ①0回	前期	4.31	4.24	4.24
		後期	4.11	4.16	4.13
2	この授業の内容を理解するために努力した	前期	4.19	4.21	4.31
		後期	4.19	4.25	4.31
10	授業の課題は適量であった（※2） ⑤とても多い ④多い ③適量 ②少ない ①とても少ない	前期	4.15	4.12	4.19
		後期	4.20	4.19	4.28
11	1回分の授業にあたり、授業時間外の事前・事後学習のために費やした平均の時間（h）は次のようである ⑤1.5h以上 ④1～1.5h未満 ③0.5～1h未満 ②0.5h未満 ①ほとんどしていない	前期	2.97	2.96	2.99
		後期	3.01	3.02	3.03

※1 設問1の各選択肢の得点は、反転して1→2→3→4→5で設定している。

※2 2024年度の設問10の各選択肢の得点は、1→3→5→3→1で設定している。2023年度以前は①～⑤の選択肢は明示されていない。

表4：学生の学修分布（2024年度）

設問	項目	学期	平均値	上段：回答数(人), 下段：回答率(%)				
				5	4	3	2	1
10	授業の課題は適量であった ⑤とても多い ④多い ③適量 ②少ない ①とても少ない	前期	4.19	622	1,220	4,807	115	91
		後期	4.28	435	947	3,948	64	39
11	1回分の授業にあたり、授業時間外の事前・事後学習のために費やした平均の時間（h）は次のようである ⑤1.5h以上 ④1～1.5h未満 ③0.5～1h未満 ②0.5h未満 ①ほとんどしていない	前期	2.99	723	1,431	2,563	1,377	773
		後期	3.03	543	1,185	2,174	966	569
				10.0	21.8	40.0	17.8	10.5